



答弁中の中嶋町長

健康を維持するための運動推進トレーニングルームの開設を

費用対効果の面から難しい

問

町の高齢化が進む中、町民がいきいきと豊かな生活を送っていくため、須恵町では食生活の改善と自然食の普及を柱とする健康づくり事業を推進しています。町民一人ひとりが健康で豊かな生活を送るには、ソフト面では食生活の改善、ハード面では健康な体力を維持していかねばなりません。そのハード面が不

足しているのではないのでしょうか。

そこで、町が指導していくトレーニングルームの開設を検討してはいかがでしょうか。町長のお考えは。

答 中嶋町長

筋力トレーニングには、健康を保持するためのトレーニングと、筋力アップを図るためのトレーニングがあると思います。



原野 敏彦 議員

健康維持・保持するためのトレーニングは、現在「わくわくデイサロン」や「ミニデールサービス」の中で、軽体操的な動きを取り入れ実施しています。しかし日々の生活の中で、家庭でもボールやタオルを使って

健康維持・保持するためのトレーニングは、現在「わくわくデイサロン」や「ミニデールサービス」の中で、軽体操的な動きを取り入れ実施しています。しかし日々の生活の中で、家庭でもボールやタオルを使って

近隣では、宇美町が専門業者と委託契約をし、スポーツ器具から指導員の派遣まで依頼していますが、費用対効果の面から難しいと考えています。健康福祉課でも、介護のお世話にならなくてすむよう、日頃から健康維持に努めるような事業内容を専門職と検討



須恵町生涯学習講座まなビック「骨太健康教室」の様子

しているところですが。今後は、医療費削減のためにも予防に努めていきたいと考えています。

熱中症対策として冷水機の導入を

感染症発生例により、本町でも撤去

問

地球温暖化の影響で、子どもたちが熱中症で救急搬送される事案が増えてきています。第二小学校でも今年の運動会の練習中に何人もの子どもが救急車で病院に搬送されました。

常日頃から気をつけていても、その日の気温・湿度・子どもの体調により、いつ熱中症で倒れるかわかりません。

答 安河内教育長

冷水機の設置基準は、文部科学省から出された学校保健安全法（学校環境衛生基準）で定められています。



柴田 真人 議員

平成11年に長野県で病原性大腸菌O157による感染が発生して以来、全国で20件以上の感染症が発生したことなどから、本町においても冷水機が撤去された経緯があります。水筒を忘れた子

どもへの対応は、水道水を飲めば済むことですが、保護者の感情としては現実的ではない面もあります。そこで、

- ①水道水の残留塩素の測定を養護教諭が定期的に行う。
  - ②十分な水を水筒に持たせることを児童・保護者へ再確認する。
  - ③緊急な対応として、保健室等の冷蔵庫に飲料水（ペットボトル）を確保しておく。
- 以上の対応を町内各小・中学校に徹底していることなどから、冷水器の導入は現段階では不要と考えます。



保健室の冷蔵庫に保管してある飲料水



教室の水筒置き場